

医心 伝心

臨床研修あれこれ

県医師会理事 清水 康一

10月30日に「第10回富山県研修医・医学生大会」が富山大学附属病院総合臨床教育センターにて開催されました。昨年までは「研修医大会」として行われてきたものですが、今年から富山大学医学部の学生たちにも参加してもらい、運営の仕方も少し変えて行われました。第一部は「－研修医は今－ 研修医のライフスタイルは？」というテーマでパネルディスカッションが生まれ、第二部では松本尚先生（日本医科大学救急医学教授・千葉北総病院救命救急センター長）に「北総救命の重症体幹部外傷治療」と題して講演していただきました。今回の開催に際しては運営に当たった我々の不手際もあってか、県内研修施設の間でこの会に対する認識に齟齬があったようで、開催まで多少ごたついたところもありましたが、盛会のうちに終了できました。長田先生をはじめご尽力いただいた富山大学の臨床研修スタッフの皆さんに感謝申し上げます。今後の運営については、各研修施設の代表にお集まりいただいて再検討する予定ですので、ご協力をお願いします。

さて、平成27年度の臨床研修マッチングの結果が発表されました。富山県は募集定員111名に対してマッチ者数は65名で定員充足率は58.6%でした。マッチ者数は昨年より2名増えましたが、充足率の都道府県別ランキングは37位で昨年と同じでした。充足率ランキングの上位は大都市圏が多いのですが、大都市部のある6都府県（東京、神奈川、愛

知、京都、大阪、福岡）を除く道県におけるマッチ者数の割合は57.4%で過去最大となりました。研修医の大都市集中、地域偏在を是正するための定員調整が一応機能しているとみることができますが、反面これらの6都府県に42.6%が集中していることも事実です。また、全国的に見ると研修先としては大学病院より臨床研修病院が多く、平成27年度は大学病院42.6%、臨床研修病院57.4%でした。富山県ではこれまで研修先は富山大学が半数以上を占めることが多かったのですが、今年度は61.5%が臨床研修病院でした。アンケート調査によれば研修先を選ぶ理由として最も多かったのは“病院の実績や研修の指導体制がよい”次いで“プログラムの内容がよい”となっており、多くの研修医を集めるためには研修内容を充実させることが王道だろうと思います。

富山県の医療にとって重要なことは、多くの初期研修医を集めることもさることながら、初期研修終了後にどれだけ県内に定着してくれるかということではないでしょうか。そのカギを握っているのが2017年度から実施される新しい専門医制度ではないかと思います。多くの大学や医療機関でプログラムを作成し準備が進められており、まだ先の見えない制度ではありますが、当初の理念通り一定の基準を満たした専門医の質を担保しようような、そして医師の偏在につながるもののない制度が築かれていけばと思います。